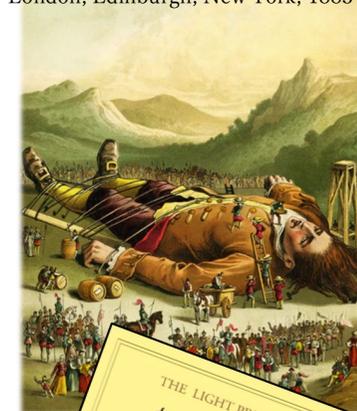


参加費無料
オンライン開催

The Japan Society for Children's Literature in English 英語圏児童文学会 西日本支部 春の研究会

2023年3月18日(土) 13:30~16:00

Gulliver's Travels: Coloured Picture Book
for the Nursery, Thomas Nelson and Sons,
London, Edinburgh, New York, 1883



1. 梶原まどか 『ガリヴァー旅行記』における異化 —大人と子どもの世界を繋ぐ手法—

ジョナサン・スウィフトの『ガリヴァー旅行記』は風刺文学を代表する名高い作品である一方で、近年では児童向けの読み物としても幅広く親しまれるようになった。本発表では本作品が如何にしてこれらの一見対照的な立場を確立できたのかを「異化」という手法に着目しながら考察していく。

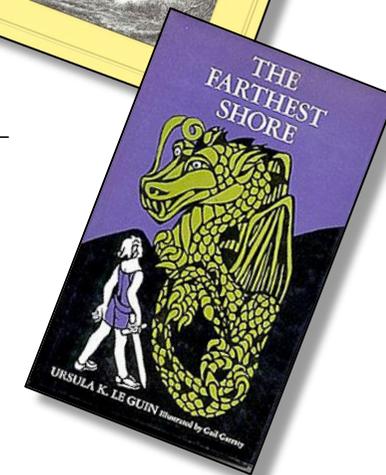
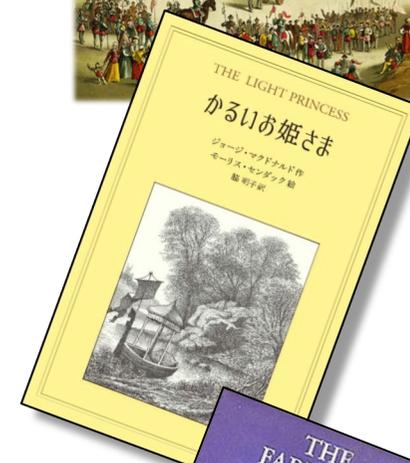
2. 隈部 歩 George MacDonald の“*The Light Princess*”における女性の身体性と生命観

本発表では、George MacDonald の短編“*The Light Princess*” (1864)を取り上げ、Fouqué の *Undine* (1811)にも言及しながら、これまで軽視されて来た女性の身体性や生命観に光を当てて行く。

3. 渡邊 裕子

生きることを意味を形作る言葉 —Ursula K. Le Guin の *The Farthest Shore* における言葉の役割—

The Farthest Shore は、死ぬことを恐れた人々が永遠の生命を欲した結果崩れてしまった世界のバランスを、魔法使いである Ged と王子 Arren が取り戻す物語である。本作の一つの特徴は、死の大切さを忘れた人々が空虚な人生を送ることと、魔法使いをはじめとする人々が、真の名などの適切な言葉を忘れてしまうことが関連させて描かれていることだ。これを踏まえ本論では、生きることを意味や喜びを形作る為に言葉が果たす役割について考察する。



■申込期限：2023年3月11日(土)

■詳細・申込：Peatix にて→



■問い合わせ→e-メールにて→



英語圏児童文学会西日本支部会

